

2005年3月31日

各位

マルホ株式会社
東レ株式会社

アトピー性皮膚炎患者における掻痒症を対象とする新規止痒薬の 国内における共同開発および販売権に関する契約締結について

このたび、マルホ株式会社(本社:大阪、社長:高木幸一、以下「マルホ」と東レ株式会社(本社:東京、社長:榊原 定征、以下「東レ」)は、東レの医薬研究所で研究開発した新規化合物であるオピオイド系止痒薬「TRK-820」(東レ開発番号)について、アトピー性皮膚炎患者における掻痒症を対象とする国内における共同開発および販売権に関する契約を締結するに至りました。

アトピー性皮膚炎は、アレルギー体質の人に生じる慢性の痒みを伴う湿疹が主にみられる疾患です。痒みのひどい患者さんでは、長期間にわたる持続性の痒みのために集中力の低下がみられること、痒みによって夜間十分な睡眠がとれないこと、痒みを抑えるために掻くことによってさらなる痒みが引き起こされ、さらに掻き続けた結果、皮膚炎が悪化することなどから、痒みがQuality of Life(QOL)を損ねていることが知られております。炎症をコントロールする薬剤としてはステロイド外用薬が有用ですが、痒みのコントロールには、ステロイド外用薬は適しておらず、従来の止痒薬(抗ヒスタミン薬など)でさえ十分抑えられないことが知られており、有効な薬剤の開発が望まれていました。

今般契約を締結した「TRK-820」は、アトピー性皮膚炎患者における掻痒症を適応症とし、従来の抗ヒスタミン薬などとは異なる新規メカニズムを有するオピオイドκ(カッパ)作動薬であり、従来の止痒薬では無効な痒みに対しても有効性を示すものと考えています。

また、本剤はアトピー性皮膚炎領域で、現在共同開発を開始する準備を両社で進めているところであり、今後の開発にあたってはマルホと東レが共同で行ない、販売についてはマルホが行なう予定です。

なお、「TRK-820」の詳細な特徴等は別紙のとおりです。

1. TRK-820 の特徴

TRK-820は、オピオイド κ （カッパ）受容体に選択的に結合し、作動活性を示し、従来のヒスタミン系の止痒薬とは異なる新規のメカニズムを有する新規化合物です。従来のヒスタミン系薬剤では抑えられなかったオピオイド系の痒み発症のメカニズムを抑えることにより、従来の止痒薬では無効であった痒みに有効性を示すものと考えています。よって、アトピー性皮膚炎患者のQOL向上に大きく貢献するものと期待しております。

2. オピオイド受容体について

受容体とは細胞膜上にあり、薬物が結合して生体反応の引き金を引く部分です。受容体は体内に多種類存在し、その種類によって結合できる化合物や、結合後あらわれる薬理作用が全く異なってきます。オピオイドも受容体に結合して反応を示す薬物の1つであり、その受容体がオピオイド受容体です。オピオイド受容体の発見当初は、受容体は1種類であると考えられていましたが、その後の学問の進歩により現在では μ （ミュー）、 δ （デルタ）、 κ （カッパ）の大きく3種類の受容体に分類できることがわかっています。

3. 作動薬とは

受容体を標的にする薬は、作動薬と拮抗薬に分けられます。作動薬はその受容体を活性化もしくは刺激して、細胞の活動を増減する反応を誘発します。

<会社概要>

マルホ株式会社

本 社：【住所】大阪府大阪市北区中津1丁目5-22

社 長： 高木 幸一（タカギ コウイチ）

資 本 金： 3億8,253万6千円

東レ株式会社

本 社：【住所】東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号

社 長： 榊原 定征（サカキバラ サダユキ）

資 本 金： 96,937百万円（2004年3月末日現在）

<本件に関するお問合せ先>

マルホ株式会社

経営企画部 秘書広報グループ TEL06-6371-8437

東レ株式会社

広報室広報課 TEL03-3245-5179